

事例のまとめ

相談者	生活課題	事例概要	支援内容	ケース会議の有無
男性 37歳（3人世帯）	⑧就労定着困難 ⑨社会的孤立	15年間定職に就くことができず親の年金で扶養されている。修学資金の返済に滞納がある。コミュニケーションの課題から人間関係を構築することが難しい。	①傾聴により意図的な感情表出 ②就労体験先の紹介と就労支援 ③就労後の相談支援 ④非正規雇用から正規雇用への支援	実施なし
女性 55歳（1人世帯）	②メンタルヘルス ④経済的困窮	母親の介護時にうつ病発症。母の死後アルバイトだけでは生計を維持することができずいた。	①就労準備支援事業への参加 ②就労支援として就職が決まる。 ③就労後の定着支援を行い本人に寄り添いながら傾聴をしている。	適宜実施 （就労先の職員）
男性 62歳（2人世帯）	①疾病 ③障がい ④経済的困窮 ⑤多重債務 ⑦家計管理課題 ⑨社会的孤立 ⑩家族関係の問題 ⑫住まいの確保	難病と精神障がいがあった。妻と離婚し、同居していた長女がうつ病で入院となる。長男は心筋梗塞で入院中となる。多重債務により介入するに至る。	①法テラスを活用して自宅で法律相談 ②自己破産となると持ち家喪失のため、行政にて住まいの確保 ③日常生活自立支援事業の利用	適宜実施
女性 71歳（1人世帯）	①疾病 ④経済的困窮 ⑦家計管理課題	生活保護の相談のために来所。相談の経過から家計管理課題もあり、自宅に訪問すると、家の中をネズミが走り回り、尿臭なども強い状態であった。	①心身状態の確認のため受診を勧奨して同行する。 ②家の中を掃除して生活状況を把握 ③日常生活自立支援事業の利用	2回実施
女性 30代（4人世帯）	②メンタルヘルス ④経済的困窮 ⑧就職定着困難 ⑩家族関係の問題	4人家族で父との折り合いが悪く精神的に不安定である。パート収入しかないため、心療内科を中断した。父との別居を望むも経済的に困難な状況であった。	①公営住宅への入居支援 ②生活保護の申請と受給決定	実施していない

相談者	生活課題	事例概要	支援内容	ケース会議の有無
男性 50歳（2人世帯）	④経済的困窮 ⑧就職定着困難 ⑫住まいの確保	同居人の年金のみ。休職中であったが、なかなか決まらず、経済的に困窮していた。家賃も高額のため今後の支払いも困難になることが予想された。	①住宅確保給付金の支給 ②就労支援の実施 結果的に就労につながった。	実施していない
男性 24歳（5人世帯）	③障がい ⑧就職定着困難 ⑨社会的孤立 ⑩家族関係の問題	中学卒業後から自宅にひきこもる。兄弟とともに就職活動をするも決まらず相談のために来所。指示した内容や文字の理解が難しかった。	①就労準備プログラムへの参加 ②療育手帳取得に向けた支援 ③支援機関とのネットワーク化 ④家族との面接	2回実施
女性 34歳（1人世帯）	②メンタルヘルス ③障がい ④経済的困窮 ⑤多重債務 ⑦家計管理課題 ⑧就労定着困難	統合失調症があり精神保健福祉手帳を所持している。電気料金やガス料金の滞納があり、手持ち金がわずかしかなかった。障害基礎年金とパート収入では不要不急な買い物が多くなると生活に困窮するため転職を検討している。	①生活困窮者自立支援金貸付 ②不要になった自転車を本人に提供 ③家計管理支援 ④職場への通勤費分を現金支給 ⑤就労定着支援	1回実施
男性 66歳（1人世帯）	②メンタルヘルス	統合失調症で40年間の通院と入退院を繰り返していた。ここ1年間ほど受診していない。母親が一部を援助するも本人の年金が足りなくなると無銭飲食等で警察に捕まることを繰り返していた。妄想幻覚状態のため医療機関受診が必要であったが、受診を拒否。家族は入院を希望するも関わりは拒否している。	①精神科受診に同行したが2回目以降の受診はできなかった。 ②屋外で奇声を発している旨の通報で警察に確保され、受診した精神科に家族の協力を得て医療保護入院となる。	2回実施
男性 60代（1人世帯）	④経済的困窮 ⑤多重債務 ⑦家計管理課題	雇用保険が支給終了となり、今後の生活のため貸付制度の相談	相談を通して多重債務があり無料法律相談を利用して債務整理を行う。国民健康保険に加入し滞納分は分納する。	1回

相談者	生活課題	事例概要	支援内容	ケース会議の有無
女性 50歳（2人世帯）	④経済的困窮 ⑦家計管理課題 ⑩家族関係の課題 ⑫住まいの確保	収入がなく生活費のやりくりができなくなってきた。就職活動をするが、なかなか受からず自信を喪失していた。	①住居確保給付金の活用 ②同行しながらの就労支援 ③職場見学 ④貸付関連機関との連携 ⑤家計表の作成	1回
男性 30代（4人世帯）	②メンタルヘルス ⑧就職定着困難	過去のいじめが原因でうつ病があり医療機関を受診している。家庭内では母親のみとの会話。同居している父と妹とはほとんど会話がな。専門学校卒業後、定職につけずにいた。人とコミュニケーションが取れず仕事が長続きしないと相談のため来所	①一般就労を目指して就労支援をする ②就労体験を経ても体験先からの評価が低く職に就くことが難しい。 ③ステップアップして一般就労につなげることを提案して、A型就労支援事業所の利用を開始する。	不明
女性 20歳（1人世帯）	④経済的困窮 ⑨社会的孤立 ⑩家族関係の問題	親がおらず児童養護施設で育つ。50万円の所持して他市町村から転入。就労意欲は高いものの自己肯定感が低く、就職活動がうまくできずにいた。	①支持的な関わり ②就労支援を通して仕事を決める ③内定後に貸付金を利用する ④就職後も生活状況等を傾聴する	実施していない
男性 48歳（6人世帯）	④経済的困窮 ⑫住まいの確保	失業し1年以上無職であり経済的に困窮しており、相談のために来所。各種制度を活用して生活費を確保し、就労に至る。	② 住宅確保給付金の利用 ②生活福祉資金の貸付 ③就労相談 ④心理的サポート	実施していない
男性 38歳（3人世帯）	②メンタルヘルス ⑧就職定着困難	長男がうつ病を発症し、自宅からの外出も困難な状況である。両親の年金等では生活費が不足するため、両親は現在よりも収入が良い仕事を探していた。親子3人の就労支援について支援を行った。	①両親ともに新たな仕事に就くには至らず現パートの仕事を増やすことで収入を増やす。 ②長男は外出できるようになってから就労支援を行うこととした。	1回

